

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

【小学校・義務教育学校前期課程】

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）
- (2) 児童質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査）
- (3) 学校質問調査（学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査）

4 調査日

令和7年4月17日（木）

II 学力調査の結果

1 教科に関する調査結果（平均正答率）

	国語	算数	理科
全国	66.8	58.0	57.1
広島県	69	59	59
府中市	67	59	59

2 調査の結果にみられる特徴（全国正答率を上回った特徴的な項目）

【国語】

【知識・技能】言葉の特徴や使い方に関する事項

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる（市 78.8% 全国 72.1%）

【思考・判断・表現】読むこと

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る（市 62.0% 全国 56.3%）

【算数】

【知識・技能】図形

平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる（市 63.3% 全国 58.3%）

【知識・技能】数と計算

数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる（市 40.0% 全国 35.0%）

【理科】

【知識・技能】生命

ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる

（市 83.6% 全国 70.7%）

【思考・判断・表現】地球

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる（市 68.9% 全国 60.5%）

3 調査の結果にみられる課題及びその課題に対する改善策

【国語】

課題	課題に対する改善策
<p>【思考・判断・表現】読むこと</p> <p>事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる</p> <p>(市 44.1% 全国 51.3%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の学習において、筆者の主張が書かれている段落を見付ける活動を行うとともに筆者の主張を自分の言葉で表現する活動を取り入れる。
<p>【思考・判断・表現】話すこと・聞くこと</p> <p>目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる</p> <p>(市 48.2% 全国 53.3%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の前にその目的や意図に応じて、自分がどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのために相手からどのような情報を引き出そうとしているのかなどを検討する活動を取り入れる。

【算数】

課題	課題に対する改善策
<p>【思考・判断・表現】数と計算、変化と関係、データの活用</p> <p>伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる</p> <p>(市 78.0% 全国 82.8%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一方の数量が変化した場合に伴って変わる数量を見付けるとともに、互いの数量の変化を読み取り、自分の言葉で表現する活動を取り入れる。
<p>【知識・技能】測定</p> <p>はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる</p> <p>(市 56.7% 全国 60.9%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はかりを使った測定の仕方の理解を図り、身近にあるものを計測したり理科の学習と結び付けたりするなど、単元構成を工夫したり他教科と関連させて指導したりする。

【理科】

【思考・判断・表現】地球 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる (市 75.8% 全国 77.8%)	・ 既有知識をもとに実験結果の予想とその理由を考えたり表現したりする活動を取り入れる。
---	---

4 児童質問調査の結果にみられる特徴（全国平均値を上回った特徴的な項目）

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか (市 72.3% 全国 69.3%)

5 児童質問調査の結果にみられる課題及びその課題に対する改善のポイント

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目	改善のポイント
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか (市 78.2% 全国 84.9%)	・ 話し合う目的と視点を明確にして、話し合う活動を行うとともにまとめや振り返りで自分が学んだことを表現できるようにする。 ・ ICTの効果的な活用の仕方について検討し、学びを深めることができるようにする。